

中央社会保険医療協議会

診療報酬基本問題小委員会議事概要（案）

1. 日時
平成15年1月22日（水）10:15～11:26
2. 場所
厚生労働省専用第18会議室（17階）
3. 議題
特定機能病院等における包括評価について
4. 議事の概要

（事務局から特定機能病院等における包括評価について資料の説明）

（2号側委員）

- ・ 診断群分類について、特定機能病院の方又は専門科の先生方からの意見があったと思うが、もう一度先生方に了解や意見を求める作業をしたのか、先生方はどういう立場で了解をしたのか、最終原案はどのような形で理解が得られたのか、作業過程を明確にして欲しい。
- ・ 全体の支払方式について、初年度、次回までを考えた全体の流れを、一般の人にも分かるような形で示して欲しい。
- ・ 是非早いうちに特定機能病院等の先生方から御意見をいただきたい。
- ・ 入院基本料等加算については、具体的なものを見せてもらった上で判断したい。
- ・ 内科的技術に係る整理については、特定機能病院の先生方に意見を求めたのか。また、この定義以外で、三つを取り上げた私達が判断できる材料があるのかを聞きたい。
- ・ 「慢性肝炎に対するインターフェロン療法等」というだけでなく、数値も踏まえた、我々が判断できる根拠を見せてもらいたい。
- ・ 手術・麻酔についても具体的な例を挙げて説明する努力をして欲しい。
- ・ 資料4・5の説明の内容については納得。
- ・ 現時点において、どの程度の時間的な遅れと積み残しがあるのか等、準備状況について示して欲しい。

（事務局）

- ・ 分類については、各学会と相談した上でお願いした先生方と年末年始にかけて電話やファックス等でやりとりをし、各大学からの意見についても

専門の先生方に判断いただいた。

- ・ 先生方からは、分類を適宜追加しながら必要な見直しを行っていくことを条件に大筋この方向で了承をいただいていると認識している。
- ・ 入院基本料等加算については、適宜資料を提供していきたい。内科的技術については、大学病院等のヒアリングで要望として具体的に上がってきたものを出している。薬剤等の取扱いについては、数値を提供したいと考えている。

(2号側委員)

- ・ 診断群分類については、専門家の御意見をいただいたということであるが、どういう意見があったのか記録として残しておいてほしい。

(1号側委員)

- ・ 本日ここで分類について了解した後、これを改めて学会等に提示し、意見を求めた上で確定したいと考えているのか。それとも、実際上は学会等との詰めは終わっているのか。

(事務局)

- ・ 各分野の先生に提示させていただいている。一応詰めは終わっていると理解している。

(1号側委員)

- ・ 会議を開いているとすれば、議事録等を残しておけばいいのではないか。
- ・ この分類は、実質上はほぼ確定したものと考えていいのか。

(事務局)

- ・ この分類は最終型ではない。必要なときに必要な見直しを行うという前提の下に御了解いただいたと認識している。

(1号側委員)

- ・ 今回はとりあえずこの原案を認める。しかし、ちゃんとフィードバックをかけてください。どういう方法を取るにしても議事録なりは残しておいて欲しい。

(2号側委員)

- ・ 分類に関しては、必要があれば手直しを行うという条件を含めた上で、これでスタートを切るということで専門家基本的な了解が成立している、

(事務局)

- ・ 我々としては、必要があれば一年くらいで分類の見直しを行いたいということ中医協にお願いしたし、専門家からもそのような意見を聞いてい

るので、そういうことを含めてまずはスタートを切るということで了解をいただいていると認識している。。

(2号側委員)

- ・ こういう分類はバージョンアップするのは当然必要。制度を導入するには、手続き等を踏んでいくということを常に忘れてはならない。

(1号側委員)

- ・ 分類を見直す必要が生ずる可能性はあり得るという前提で今後のスケジュールを考えておくべきである。専門家とも見直しはあり得るということで基本的な了解が得られているというのであれば、これで進めていただきたい。
- ・ 施行準備がどの程度整ってきているのか。大学側を呼んで準備状況について確認をする機会を設けるか。

(事務局)

- ・ 昨年、全国説明会を行い、疑問点などについて情報提供を行ったところ。その際、医事コン、レセコンメーカーの方々も参加いただいております。情報提供はできている。また、分類に関するツリー図や定義テーブルとコンピューター上のロジックの関係についても医療情報関係の先生方から意見もいただいている。さらにレセプトの様式も早く示していただきましたので、請求の関係は早く準備ができていると聞いている。
- ・ 病院の中のネットワークシステムのレベルに関しては、個々の大学のレベルで対応が異なるようである。

(1号側委員)

- ・ ネットワークの問題が四月実施という問題とどのように関係してくるのか分からないが、明確に結論が出せるように条件を整えておいて欲しい。
- ・ 実施時期については、決めた以上は四月が好ましい。予定通り、4月実施をしてほしいと希望する。包括評価は昨年の四月改定の一部である。改定から一年たって目処がついていないのは普通の状態でないので、早期に結論が出せるようにして欲しい。

(2号側委員)

- ・ いつでも必要があれば見直すというのであればいいけれども、そうでないのであればどうだと言われても無理だという気がするので、その辺のところを考えていただきたい。

(1号側委員)

- ・ 全体の組み立て方の論理や分類の手法については、 α 版の過程でも議論してきており妥当なところかと。専門家と協議してこういう形で整理し

てきたのだというのであれば、これでスタートを切ることでやむを得ないのではないか。

- ・ 見直しに関しては、タイミングとか見直しのやり方の問題はあるが、必要なものは見直しをするということについて否定するつもりはない。1年後の見直しということもあり得るかという気もする。
- ・ この分類で、一般病棟に入院している患者のどのくらいがカバーできるのか。

(事務局)

- ・ カバー率は基本的には九割を超えていると考えている。

(2号側委員)

- ・ この分類が入院患者の症例の何%、入院費全体の何%、特定機能病院の医療費全体の何%を占めるのか、また、外来患者の医療費はどのくらいになるのか、資料を出して欲しい。

(会長)

- ・ 分類を見直す必要性が起こった場合には、1号側、2号側ともに弾力的に対応すること、また、フィードバックされたものをしっかり把握しておくことという意見があった。そのうえで、本日説明のあった方向で進めることで御了承いただいたということで締めたいと思います。
- ・ 次回は係数を盛り込んだ形で資料を提出できるように作業を進めて欲しい。

(事務局より、今後の日程及び議論の進め方について説明。)

(会長)

- ・ オブザーバーの先生方に御感想をお願いしたいと思います。

(西岡氏)

- ・ 患者の迷惑にならないように試行期間をいただきたい。
- ・ 全体の流れが決まらないと各診療科への説明もできないので、決まっていないところはできるだけ早く決定していただきたい。

(柿田氏)

- ・ 分類の精緻化と全体的で最終的な図としてこれで本当にいいのか、実際の数字が入らないと分からない。
- ・ 今後必要に応じて補正をかけるということの確認をしていただくことが一番大事である。

(原氏)

- ・ これからこの診断群分類の最終版を現場に周知していきたいと思います。

(2号側委員)

- ・ 来週議論する予定の「医療機関の機能の評価」については、特定機能病院としてどのような機能を果たしてきたのか、どういうことを評価して欲しいのか、という意見を現場の先生方から集約して議論させて欲しい。

(事務局)

- ・ 昨年、特定機能病院にアンケート調査を行ったので、次回はその集計結果を提出したいと考えている。

以上